

第 48 回研究会の概要

教育・研修委員会

I. はじめに

2015 年 8 月 20 日（木）と 21 日（金）、日本図書館協会研修室を会場に、第 48 回研究会を開催した。地区別ブロック制に制度変更後の最初の研究会開催で、委員会の組織化と企画期間が短かったこともあり、過去のアンケートを参考に、図書館業務の基本知識を改めて学ぶ場とし、新人研修会の次のステップという位置づけでの講義形式とし、テーマは「看護図書館員としてのステップ・アップー分類・著作権・ILL」とした。参加者は会員 49 名、非会員 19 名の計 68 名であった。

初日は、受付開始後より企業展示を行った。今回はスペースの都合で、委員会の判断で医学書院、サンメディア、医学中央雑誌刊行会 3 社に限定して依頼した。



開会挨拶を井上事業局担当理事が行なった後、オリエンテーションとして見学移動に関する説明等があった。

II. 最近の電子媒体の動向

賛助会員のプロダクトレビューではなく、委員会で限定した発表を依頼した。

1. 「e ナーストレーナーの看護技術」

看護教育では視聴覚資料のニーズが高く、単価の高いビデオ・DVD 購入は図書館の関心が高かった。しかし DVD 発行は近年減少し、教員作成も含めたパソコンを活用した教育素材の開発が進んでいる。海外では先行していたが、国内で看護技術に関する動画素材である e ナーストレーナーの発売が予定されたので、紹介を依頼した。

2. 「ピアオンラインの看護文献入手」

電子媒体は多種多様に提供されつつある。電子ジャーナルでは、Medical Finder と Pier Online に看護雑誌が多く含まれている。電子ジャーナルの活用は文献複写にも影響を与えている。電子ジャーナル導入例として、サンメディアの Pier Online 導入と活用についての紹介を依頼した。

III. 看護の図書进行分类する

1. 「日本十進分類法新訂 10 版について」

日本十進分類法は改訂された時機でもあり、日本図書館協会分類委員会委員に看護・医療を中心に改訂版の紹介をお願いした。

2. 「日本看護協会看護学図書分類」

この分類の作成元である日本看護協会図書館より分類の方針や分類例が解説された。

3. 「国立医学図書館分類法と看護分野図書」

国立医学図書館分類法を利用している国際医療福祉大学図書館から、看護以外も含めた分類例と課題が紹介された。



IV. 聖路加国際大学学術情報センター図書館 見学

会場が会員図書館でなかったため、比較的近くの聖路加国際大学学術情報センター図書館を見学させていただいた。

聖路加国際大学は2014年4月に「聖路加看護大学」から名称変更し、隣接する聖路加国際病院とあわせて学校法人の運営¹⁾となった。見学には41名の参加者があり、聖路加国際大学の方のご案内により、2グループに分かれ、図書館を含め、4カ所を回った。聖路加国際大学学術情報センター図書館からいただいた地図には、大学がある築地の歴史的名所が載っており、築地市場や築地本願寺の他にも、活字や通信産業、学校教育等の文明が発祥した所でもあるということを知った。

1. 学術情報センター図書館

聖路加国際大学と聖路加国際病院の研究・臨床を支援する環境が整えられ、2020年には創立100年を迎える長い歴史の間に蓄積された資料と設備が24時間利用できる。一角は壁全体が自由に書き込めるように作られ、おすすめの図書の紹介など、楽しみながら情報交流ができる場となっている。また、近くの歴史展示室ではかつて使われていた看護物品や看護教育の年表等が展示され、歴史を大切に継承しながら新しいものも取り入れる姿勢を感じた。

2. るかなび

地下鉄築地駅近くにある大学2号館1階の一般利用者への健康情報サービススポットで、看護職や司書の方と一緒に医療情報を探し、健康相談・健康チェックができる。闘病記や専門書が自由に利用でき、学生手作りの病気に関するパンフレットもあった。抹茶を飲みながら健康について語り合うティーサロン、健康をテーマにしたミニ講座とミニコンサートを定期的に行なっているそうで、地域の方が気軽に足を運べ、身近な健康情報から専門的な医療情報まで得られる場所である。



3. 聖ルカ礼拝堂

1936年に完成したキリスト教のチャペル²⁾で、中では荘厳なパイプオルガンが鳴り響いており、日常とは違う雰囲気を感じることができた。

4. トイスラー記念館

トイスラー記念館は聖路加国際病院、聖路加国際病院附属高等看護学校を創設したキリスト教宣教師、ルドルフ・B・トイスラー氏の宣教師館で、1933年に建てられ、1997年に現在の場所に移築された。普段は公開されていない、聖路加国際病院の貴重な歴史資料も展示されている重厚な造りの内部を、ご案内の方に詳しい説明をしていただきながら拝見した。

V. 懇親会

聖路加国際大学学術情報センター図書館見学終了後、近くのレストラン「築地テラス」で行ない、33名が参加した。おしゃれな料理とワイン等のアルコールで話のはずんだ懇親会となった。

VI. 著作権について考える

1. 「図書館と著作権」

最初に文化庁の小林左和著作権調査官より、「図書館と著作権」と題して、著作権制度について説明がなされた。

「著作権とは何か」として、①知的財産権、②著作権制度の沿革、③著作権制度の概要、④著作者の権利、⑤著作隣接権、⑥出版権、⑦外国の著作物等の保護についての説明があり、「著作物の利用」として、⑧他人の著作物を利用する方法、⑨著作物等の「例外的な無断利用」ができる場合の説明があり、「著作権を守るための制度」として、⑩著作権が「侵害」された場合の対抗措置、⑪登録制度についての説明があった。

図書館は、著作物を多くの人が利用する場であり、来館者の著作物利用を適切に促進することが求められている。このような図書館の業務と関わりの深い著作権法の規定を中心とした説明であった。

教育研究機関では、教員の教育・研究と学生の学習・研究を支える資料複写業務が必須と思われるが、大学の図書館と専門学校の図書館では、著作権法上の取扱いが異なると解されている。著作権法31条1項では、「図書館等」は、一定の条件を満たす場合、権利者の許諾なく著作物を複製することができることとされているが、その「図書館等」の範囲に、大学の図書館は含まれるが、看護専門学校の図書館は含まれないと解されている（著作権法施行令1条の3第1項参照）。したがって、看護専門学校の図書館は権利者の許諾なく著作物を複製することはできない。参加者からは、同じ看護系教育機関である大学には著作権法31条1項が適用されるが、専門学校には適用されないという違いが、事実上の業務遂行で問題となっていることが指摘された。

2. 「日本看護図書館協会の2014年度著作権アンケート結果と課題」

井上前総務担当理事より、2014年度に会員の看護学校を対象に看護図書館における著作権問題に関するアンケート調査を実施したことの紹介があり、著作権法31条の対象外とされている会員館が困っているという現実を踏まえつつ、今田統括理事が日本看護図書館協会として今後どのような対応が可能か検討していきたいと総括された。

Ⅶ. 文献複写サービスの現状



1. 「国立国会図書館の蔵書検索と申込のポイント」

文献複写サービスは国立国会図書館からも広く提供されている。具体的な方法を含めた紹介により、会員の理解を深めることを目指した。国立国会図書館の WEB を利用した情報取得方法に関して、下記目次にそって詳細な説明が展開された。

- ① 国立国会図書館の紹介
概要・組織
- ② 国立国会図書館の蔵書検索
◇NDL-OPAC ログイン 資料の検索・詳細検索
検索のポイント、資料を選択する
書誌情報画面①・②・所蔵詳細画面
- ③ 貸出・複写申し込み
◇図書館協力ハンドブック
図書館間貸出と遠隔複写
図書館間貸出：概要・申込みの流れ・申込確定
遠隔複写：概要・申込みの流れ
CiNii からの遷移
- ④ Database Linker の活用
概要・利用の流れ
- ⑤ 国立国会図書館サーチ
概要・資料種別・検索結果一覧・書誌情報画面

実際に画面展開で、接続方法を事例に基づき表示されたので、実際の利用経験がなかった参加者にも参考になったと思われた。

2. 「NACSIS-ILL 業務の概要と大学図書館での ILL 業務の実際」

大学図書館から図書館間の ILL の方法と、看護大学図書館での事例紹介していただいた。

3. 「専門学校図書室における文献複写サービス」※

専門学校における文献複写についても紹介していただいた。

Ⅷ. おわりに

閉会にあたり井上事業局担当理事、小川教育・研修委員長より挨拶があり、終了した。

参加者 68 名中 50 名がアンケートにご協力いただいた。プログラム毎に「今後役立つ知識だった」「業務の参考になった」「十分理解できなかった」「関心のないテーマだった」の 4 項目の該当をたずねた。多くの方が「今後役立つ知識だった」「業務の参考になった」を選択され、図書館業務の基本の分類・著作権・ILL を改めて学ぶという目標は一定程度達成できたかと安堵した。自由記述で「自館の分類の見直しをしたい」「著作権の勉強になった」

「各図書館の事例が参考になった」などの感想をいただいた。雨模様の中、ご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

研究会開催にあたり、会場提供の準備段階からお世話になった日本図書館協会のご担当者、見学に際し多大なご配慮をいただいた聖路加国際大学関係者の方々、短期間の依頼にも関わらず快くお引き受けいただいた講師の方々、資料配布や受付など多くのご助力・ご助言をいただいた理事・監事の皆様に、厚くお礼申し上げます。

プログラム（講師敬称略）

2015年8月20日（木）

受付・企業展示 11:30-12:00

I. 開会挨拶・オリエンテーション 12:00-12:10

II. 最近の電子媒体の動向

12:10-12:30 「eナーストレーナーの看護技術」

(株)医学書院 大谷 悠也

12:35-12:55 「ピアオンラインの看護文献入手」

(株)サンメディア 前田亜寿香

III. 看護の図書を分類する

13:10-14:00 「日本十進分類法新訂10版について」

日本図書館協会分類委員会（町田市立堺図書館）黒田 一郎

14:10-15:00 「日本看護協会看護学図書分類」

日本看護協会図書館 柏俣 友紀

15:00-15:40 「国立医学図書館分類法と看護分野図書」

国際医療福祉大学図書館 岡崎 円香

IV. 聖路加国際大学学術情報センター図書館 見学 16:30-17:30

V. 懇親会 18:00-20:00

会場：築地テラス（東京都中央区築地2-14-6）

8月21日（金）

受付・企業展示 9:30-10:00

VI. 著作権について考える

10:10-11:30 「著作権と図書館」

文化庁長官官房著作権課著作権調査官 小林 左和

11:30-12:00 「日本看護図書館協会の2014年度著作権アンケート結果と課題」

前総務担当理事 井上 貴之

統括理事 今田 敬子

VII. 文献複写サービスの現状

13:15～14:15 「国立国会図書館の蔵書検索と申込のポイント」

国立国会図書館利用者サービス部サービス企画課 情報サービス企画係

倉谷 麻耶

14:20～15:10 「NACSIS-ILL業務の概要と大学図書館でのILL業務の実際」

東邦大学医学メディアセンター看護学部図書室 若山 正子

15:10～15:50 「専門学校図書室における文献複写サービス」

東京衛生学園専門学校図書室 加賀野井 恵

VIII. 閉会挨拶 15:50～16:00